

2019年3月期第2四半期 決算説明会 Q&Aサマリー

Q: Q1からQ2においてT&Mの営業利益率が悪化した理由は何か？

A: 5G向け研究開発費の増加が主な要因である。

Q: 新公表値を達成する上での下期のリスクと課題は何か？

A: 5G商用化ロードマップの変化、及び、競合との競争激化を主なリスクとして認識している。市場動向の推移を注視し、投資および経費の柔軟なコントロールなど、臨機応変な対応を行う。

Q: 米国の内需関連投資は堅調とあるが、具体的な内容は何か？

A: 主に、LTE回線を用いた公共無線ネットワークへの投資が増えている。

Q: 3GPP Release16でアンリツが提供できるソリューション、強みは何か？

A: 3GPP Release16では低遅延、多数接続の規格が標準化される。例えば低遅延に関して、無線区間の測定だけでなく、ネットワーク全体の品質評価が必要になる。当社はモバイルだけでなくネットワークを含めた計測ソリューションを提供することができるのが強みである。

Q: IoT、車載市場においてアンリツはどのような取り組みをしているか。具体的な例を上げてほしい。

A: IoTの実現においてWLAN利用の拡大が期待できる。WLANの評価においてこれまで無線の評価が主であったが、当社は接続手順（プロトコル）を確認出来るソリューションを保有している。このソリューションは、今まで測定器の需要がなかった家電メーカー等にも接続手順の重要性を訴求でき、新たな測定器のニーズを創出できる。